

令和5年度いしかわ森林環境基金事業 評価報告書

令和5年11月30日

いしかわ森林環境基金評価委員会

いしかわ森林環境基金評価委員会意見

1 意見

令和4年度の「いしかわ森林環境基金事業」の主な取組と実績については、適切であり、引き続き、放置竹林の除去や緩衝帯の整備、県産材の利用促進による森林の公益的機能の確保、及び県民の理解と参加による森づくりの推進に努められたい。

2 付帯意見

今後、いしかわ森林環境基金事業の執行等に際し、以下の点について、適切に対応されるよう申し添える。

- (1) 放置竹林の除去については、危険が伴う作業であるため、労働安全対策を図り、適正な価格で人件費を設定し、慎重な作業に努めること。
- (2) 普及啓発事業については、引き続き、多くの県民が参加する森づくりの推進や森林や木材利用に対する理解の増進に努めること。

令和4年度取組実績

I 森林整備 429,236 千円

- (i) 放置竹林の除去等 100ha
- (ii) 緩衝帯整備 22 地区
- モニタリング調査等 1 式

II 県産材利用促進

- (i) いしかわの森で作る住宅推進事業 42,670 千円
 - ・県産材を使った住宅等の新築・増改築・購入への助成
- (ii) いしかわの木を活かす民間施設普及拡大事業 35,725 千円
 - ・県産材使用の模範となる民間施設への助成
- (iii) いしかわの木づかい運動推進事業 5,995 千円
 - ・県産材の利用促進に向けた機運醸成

III 普及啓発

- (i) 森林や木材利用に対する理解の増進 20,902 千円
 - ・普及啓発や情報提供の実施 等
- (ii) 県民参加の森づくりの推進 12,840 千円
 - ・県民森づくり大会等の開催や子ども達に参加する森林体験活動への支援 等

合計

547,368 千円

(税 407,668 千円)
(国庫 139,700 千円)

I 森林整備

県民共有の財産である森林を健全な姿で次の世代に引き継いでいくため、森林の公益的機能の維持・増進を図る整備を実施しました。

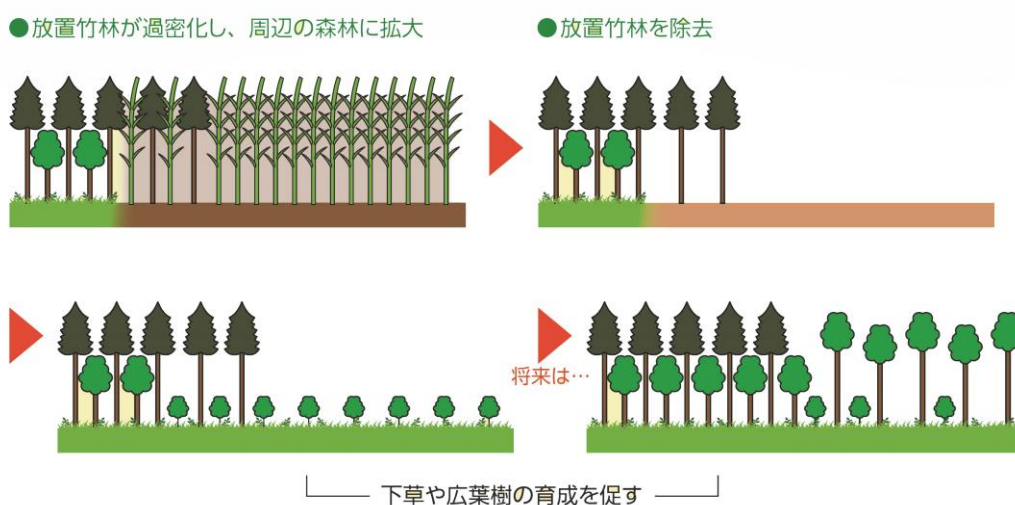
令和4年度は、(i)放置竹林の除去と(ii)里山における緩衝帯整備の他、これらの事業の効果を検証するため、モニタリング調査を引き続き実施しました。

(i) 放置竹林の除去(事業費:391,947千円(基金252,247千円+国庫139,700))

近年の豪雨の増加を踏まえて、放置竹林に起因する山腹崩壊などを防ぐため、集落周辺と水源域のうち集落に近い放置竹林を重点的に除去しました。

(事業主体:県)

令和4年度は、放置竹林の除去100ha、広葉樹の植栽100ha、除去後2年間の再生竹の刈払い250haについて実施しました。



放置竹林の除去のイメージ図

■整備計画

- 第4期(R4~R8)の計画: 550ha
(集落周辺を優先し、地区の同意が得られた箇所から順次実施)
- 併せて、広葉樹の植栽と、除去後2年間の再生竹の刈払いを計画

■第3期及び令和4年度の実績

(ha)

項目		第3期(H29~R3)						第4期
		H29	H30	R1	R2	R3	計	R4
放置竹林の除去	計画	120	120	120	120	120	600	110
	実績	121	124	77	101	180	603	100
植栽	実績	19	19	23	101	180	342	100
再生竹の刈払	実績	206	213	246	240	247	1,152	250

※各年度の計画数量は当該計画期間の目標を単純平均したもの

■放置竹林の除去の実施状況

<加賀市黒瀬町甲 地内>



<津幡町倉見 地内>



■再生竹の刈払の実施状況

<加賀市熊坂(くまさか)>



<羽咋市本江(ほんごう)>



■林業試験場によるモニタリング結果(放置竹林除去の効果検証)

第3期(H29~R4)に放置竹林の除去を実施した人工林の20カ所において調査固定枠(10m×10m)を設置し、天然更新による高木性広葉樹の生育状況を調査したところ、実施後5年間で針広混交林化が進んでいる傾向が認められました。

放置竹林除去(親竹伐採と2年間の再生竹刈払い)後の植生調査:20カ所で継続(H29~)



除去後はそれぞれの標高域に応じて多くの高木性広葉樹が生育しており、現在は周辺広葉樹林の主要樹種であるコナラのほか、ウワミズザクラ、クリ、ホオノキなどの優占が進みつつあります。

■放置竹林除去5年後に見られる主な広葉樹

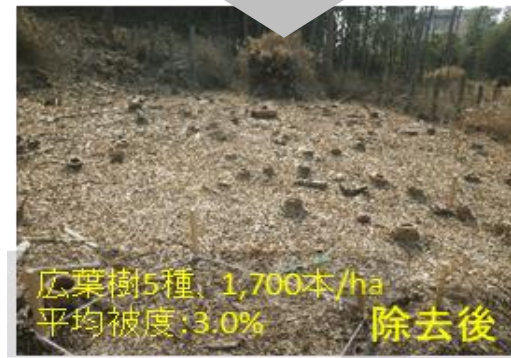
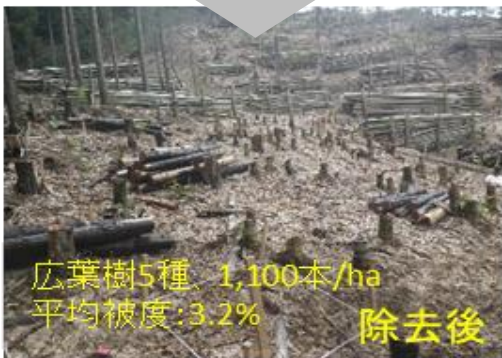
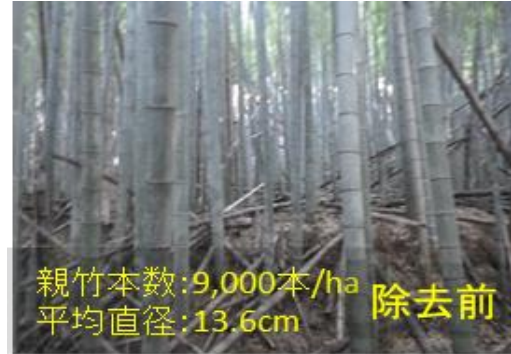


また、県内 20 力所の放置竹林除去地で再生竹の繁茂と植生の回復状況の調査を実施したところ、再生竹は密度・直径ともに減少する傾向が観察されたとともに、高木性広葉樹の稚樹が本数、種数ともに増加する傾向が認められました。

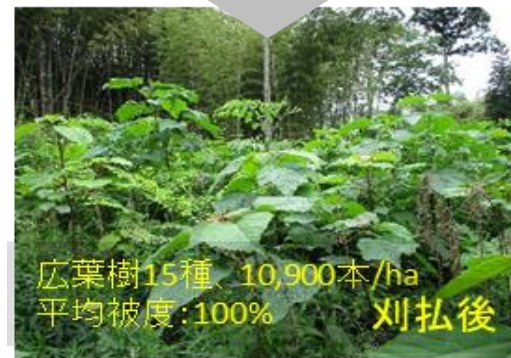
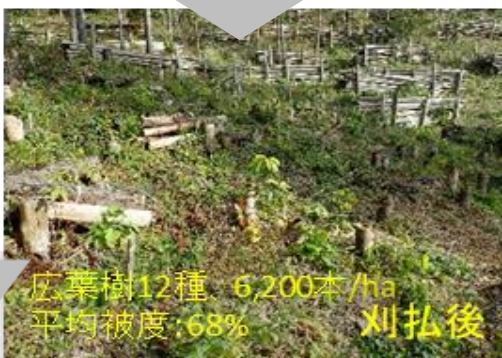
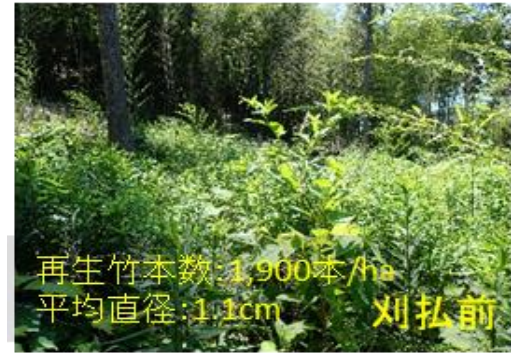
能登町猪平(いのひら)

津幡町浅田(あさだ)

H29
放置竹林の除去

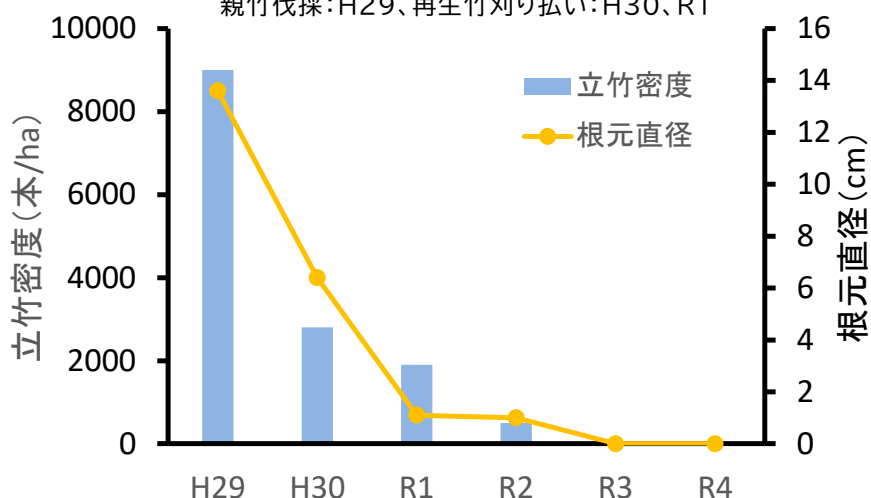


R1
再生竹の刈払



放置竹林の除去跡地: 20 力所で継続調査(H29~)

津幡町浅田における立竹の密度・根元直径の経年変化
 (10m×10mの同一方形区内で、親竹・再生竹いずれも伐採前・刈払前に調査)
 親竹伐採:H29、再生竹刈り払い:H30、R1



放置竹林除去地に更新した広葉樹の種類は、多くの広葉樹が更新し、構成する種も類似していました。

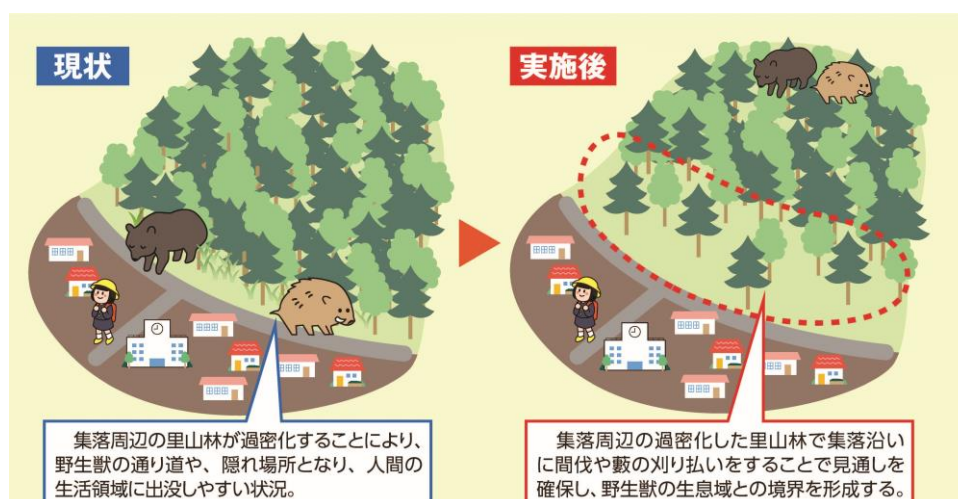
整備した翌年の平成 30 年には、ほとんどの整備地でカラスザンショウやアカメガシワなど先駆性樹種が優占していましたが、2年目になり、ヤマザクラやホオノキなどの広葉樹も見られるようになりました。

(ii) 里山における緩衝帯整備(事業費:37,289 千円)

野生獣の出没に対して、野生獣と人里との距離を保つ(バッファゾーンを設ける)ことを目的に、過密化した里山林において森林の見通しを良くするための立木竹の伐採や刈払い等の整備を実施しました。(事業主体:市町)

令和 4 年度は過去3年間に野生獣の出没回数が多く、地区から要望があった 22 地区について実施しました。

なお、開発行為後に維持管理がなされず緩衝帯整備の対象となっている場合においては、県や市町が森林所有者への働きかけを行うとともに、所有者が不明となっている場合においては、森林経営管理法にもとづく所有者不明森林の特例措置の活用も視野に入れて整備を進めていく必要があると思われます。



緩衝帯整備のイメージ図

■整備計画

- 第4期(R4~R8)の計画： 80 地区
(過去3年間に野生獣の出没回数が多かった地区の中から、各地区の要望等を踏まえて選定)

■第3期及び令和4年度の実績

項目		第3期(H29~R3)					計	第4期
		H29	H30	R1	R2	R3		R4
緩衝帯の整備	計画	10地区	10地区	10地区	10地区	10地区	50地区	16地区
	実績	12地区	10地区	10地区	12地区	10地区	54地区	22地区

※各年度の計画数量は当該計画期間の目標を単純平均したもの

■緩衝帯整備の実施状況

<金沢市山王町2丁目地区>



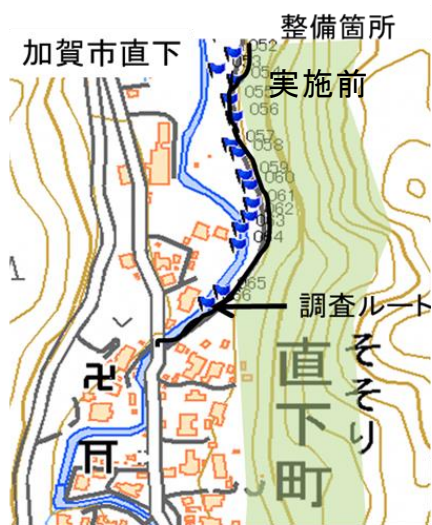
<能登町上長尾(かみながお)>



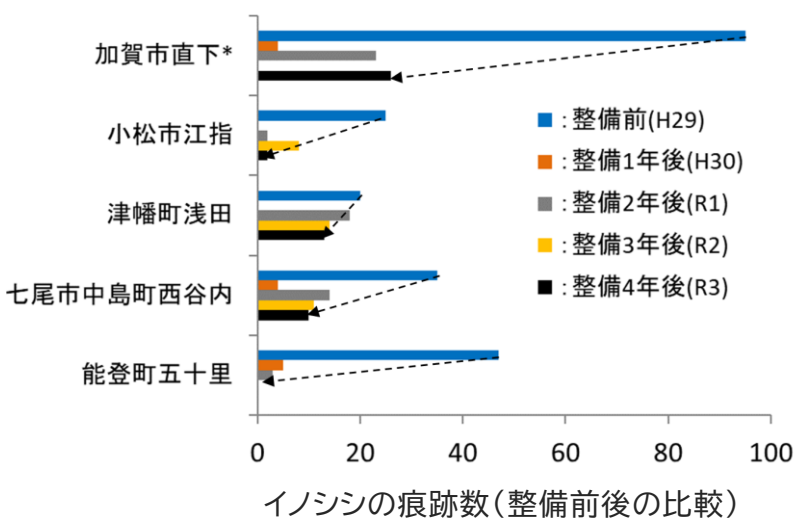
■ 林業試験場によるモニタリング結果（緩衝帯整備の効果検証）

1. 痕跡調査

県内5地区において、集落と緩衝帯整備森林との間に、約1kmの調査ルートを設置し、イノシシの痕跡（ケモノ道、足跡、掘り返し、食害痕、落石など）の数を整備前（H29）から整備後4年間（H30～R3）にわたり調査しました。その結果、整備1年後は整備前と比較してすべての地区で痕跡数が著しく減少しました。整備2年後にはやや回復する地区がありましたが、整備前と比較して整備4年後まで減少傾向にありました。このため緩衝帯整備の効果は4年以上継続するものと考えられます。



痕跡調査ルートの例



イノシシの痕跡数（整備前後の比較）

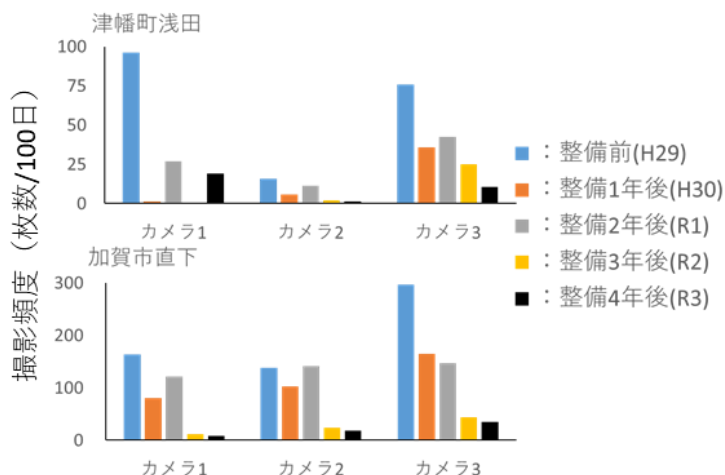
* 加賀市直下の整備3年後（R2）は調査できなかった。

2. カメラ調査

2地区（津幡町浅田、加賀市直下（そそり））にそれぞれ3台の自動撮影カメラを3年設置し、イノシシの出没状況を調査しました。

これらの地区では整備前と比較して整備1年後にはイノシシの撮影頻度が著しく低下しました。整備2年後は若干の増加傾向がありましたが、整備前と比較して整備4年後まで減少傾向にありました。

このため痕跡調査と同様に、カメラ調査でも緩衝帯整備の効果は4年以上継続することが示されました。



2地区に設置したカメラのイノシシ撮影頻度

■聞き取り調査

令和3年及び令和4年に緩衝帯の整備を行った箇所において、地区の代表者等に経過の聞き取り調査を行いました。

①金沢市山王町(さんのうちょう)2丁目地区(令和3年整備)

整備前は通年でクマが目撃されており、クマの糞が路上で発見されたこともあった。

整備後は見通しがよくなり、安心感を得ることができていると町会長から喜びの声を聞いている。整備後も金沢市の補助事業を受けて下草の刈払い等を継続するとともに、町内会でも草刈りを実施している。



金沢市山王町2丁目地区(整備箇所が住宅地に近接している)

②小松市波佐谷(はさたに)地区(令和4年整備)

整備前は散歩道になっており、クマが出ることに不安があったため、町内放送による注意喚起による呼びかけで対策を講じていた。

整備後は林内に光が入り見通しが良く、景観もよくなり、クマが目撃されなくなった。整備後も地域住民で一体となり、維持管理に取り組んでいる。



小松市波佐谷地区(整備箇所が散歩道になっている)

II 県産材利用促進事業

木材の最大の用途である建築分野での更なる県産材利用促進対策として、住宅助成制度の拡充や、県産材を使用した民間施設への支援制度の創設に加え、県産材利用の機運醸成に向けたPRなどを実施しました。

(i) いしかわの森で作る住宅推進事業(事業費:42,670 千円)

県産材の利用を促進するために、県産材を使用した住宅を建てた施主に対し助成を行いました。

令和4年度は、県産材使用量 15 m³以上と 5 m³以上の2つの助成区分を新設し、助成件数、県産材使用量ともに過去最大となり、助成件数 264 件、県産材使用量 3,525 m³となりました。



令和4年度助成実績

区分	助成件数	県産材使用量
5~7 m ³ 未満	22 件	134 m ³
7~15 m ³ 未満	133 件	1,307 m ³
15~20 m ³ 未満	30 件	513 m ³
20 m ³ 以上	34 件	808 m ³
25 m ³ 以上かつ 県産材使用率 90%以上	21 件	742 m ³
外構部	24 件	21 m ³
計	264 件	3,525 m ³

(ii)いしかわの木を活かす民間施設普及拡大事業(事業費:35,725 千円)

民間施設における県産材利用について、啓発段階から普及拡大段階へと取組を進めるため、県産材使用率などの一定の要件を満たす民間施設に対し、助成を行いました。

令和4年度は、助成件数14件、県産材使用量425 m³となりました。

令和4年度助成施設

(木造)



メンタルケア施設



事務所



事務所



工場



事務所兼飲食店



保育園



クリニック



集合住宅



集出荷作業場兼事務所



クリニック



飲食店

(木質内外装)



カフェ



営業所兼製品展示場



オフィス

(iii)いしかわの木づくり運動推進事業(事業費:5,995千円)

県産材利用の機運醸成に向けて、県産材の認知度向上に向けた取組や、各種情報提供のほか、県産材の利用拡大における功績のあった者を表彰する取組を実施しました。

【令和4年度いしかわの木づくり表彰受賞者】

(1)県産材利用住宅部門(4者)

- ①前年度(令和3年度)の県産材の需要拡大に貢献した者
(株)シモアラ(7㎡以上31戸、うち20㎡以上20戸)
(株)玉家建設(7㎡以上64戸、うち20㎡以上1戸)
(株)山下工務店(7㎡以上13戸、うち20㎡以上5戸)

②他の模範となる住宅

二世帯の大屋根の家【金沢市】県産材使用量:33.56㎡
(設計:(有)金沢設計、施工:若狭建設(株))

- ・県産材をふんだんに使用し、伝統的な木組みによる重厚で力強い、他にない優れた意匠



(2)県産材利用施設部門(2者)

- ①七尾城登山口駐車場休憩案内所【七尾市】県産材使用量:26.08㎡
(施主:七尾市、設計:武岡設計事務所、施工:(株)シラヤマ)

- ・七尾城跡の麓に位置し、城下町として栄えた歴史に調和した和風建築。大きな開口部に能登ヒバの格子建具を使用し、自然採光を取り入れた明るい空間が作り出されている。



②1/3 HAMBURGER FACTORY【金沢市】県産材使用量：11.50 m³

(施主：(株)積善余慶、設計：(株)ボスコ、百一、施工：アイズ建築)

・使用する木材の9割以上を県産材とし、県産材の良さを実感できる小規模施設での県産材利用のモデルとなる取組



(3) 県産材利用製品部門 (1者)

あすなろの楕円桶(製造者：輪島キリモト)

・水に強く、清々しい香りを放つ能登ヒバの特性が活かされ、楕円形に桶を組む高度な職人技により作り出された製品



Ⅲ 普及啓発事業

森林は、様々な公益的機能を持っており、県民共有の財産として社会全体で支えていくことが重要です。このため、森林の重要性を県民の方々に十分に理解していただくとともに、森づくり活動の参加を推進することを目的として、(i)森林や木材利用に対する理解の増進と(ii)県民参加の森づくりの推進を2本柱として施策を展開しています。

令和4年度は、他部局とも連携しつつ、下記の事業を実施しました。

■令和4年度 普及啓発事業一覧

(単位:千円)

区分	事業名	事業費
(i) 森林や木材利用に対する理解の増進	(1)いしかわ森林環境基金評価委員会	20,902
	(2)いしかわの森づくり普及広報推進事業	
	(3)いしかわ森林環境功労者表彰	
	(4)森林への理解を育む木育推進事業	
	(5)里山子ども園推進事業	
	(6)いしかわ森林環境実感ツアー	
	(7)いしかわ景観キッズプログラム	
	(8)木に親しむまちづくり推進事業	
(ii) 県民参加の森づくりの推進	(1)いしかわの森づくり推進月間事業	12,840
	(2)こども森の恵み推進事業	
	(3)森づくりボランティア推進事業	
	(4)いしかわ身近な森保全事業	
	(5)フォレストサポーターによる森づくり推進事業	
	(6)企業の森づくり推進事業	
	(7)石川の森整備活動CO2吸収量認証事業	
合計		33,742

それぞれの事業の概要は以下の通りです。

(i) 森林や木材利用に対する理解の増進

(1) いしかわ森林環境基金評価委員会

事業の成果を検証・評価するとともに、事業の見直しの必要性について検討するため、県産材利用施設の視察も兼ねて県立図書館で開催しました。



いしかわ森林環境評価委員会

(2) いしかわの森づくり普及広報推進事業

新聞広告やパンフレットの作成により、県民に対し森林の役割や森林環境税の意義を周知するとともに、各種イベントにおいて森林や木材利用に対する理解を深めるための取組を実施しました。

平成19年の税導入当初から16年間で約19万人が取組に参加しており、県民の森林・木材利用に対する理解の増進や県民参加の森づくりの推進につながっています。

新聞広告(6/26(日)、9/25日)、3/19(日)北國新聞及び北陸中日新聞掲載)



いしかわの里山里海展(8月)



農林漁業まつり(10月)



いしかわ森林環境税パンフレット

(3)いしかわ森林環境功労者表彰

森林環境の保全に対する貢献が顕著であり、他の模範となる者を表彰しました。
令和4年度は、4団体を功労者として選定し、知事から表彰状を授与しました。

【主な功績】

区分	功労者	表彰者数
R4	株式会社 丸中組 能登島自然の里ながさき 株式会社 石川コンピュータ・センター 能美市立和気小学校	4



県民みどりの祭典にて表彰(津幡町)

区分	受賞者名	主な功績
企業	株式会社丸中組 (珠洲市)	平成24年度から、珠洲市の県有林において、植樹や育樹に取り組んでいる。植樹した苗木は660本を超え、社員延べ1,500人以上が継続的に森づくり活動に取り組んでいる。
団体	能登島自然の里ながさき (七尾市)	平成21年度から、地域住民と共同で竹の除去や間伐を進め、県立大学や地元小学校への森林環境教育にも尽力している。近年は間伐材を薪として活用した塩の生産を始めるなど、森林の多面的な利活用を実践している。
企業	株式会社 石川コンピュータ・センター (金沢市)	平成24年度から、内灘町の海岸林において、カンワ林の造成に取り組んでいる。従業員のみならずその家族も広く取組に参加しており、地域住民の交流の場となるよう遊歩道の整備を進めるなど、地域社会にも貢献している。
学校	能美市立和気小学校 (能美市)	昭和57年頃から、近隣の虚空蔵山(こくぞう)において、しいたけ植菌体験や炭焼き体験など様々な森林体験プログラムを進めており、近年はクヌギの種(ドングリ)から苗木を育てて植樹する新しい取組も開始しており、積極的に森林教育活動を実施している。

(4)森林への理解を育む木育推進事業

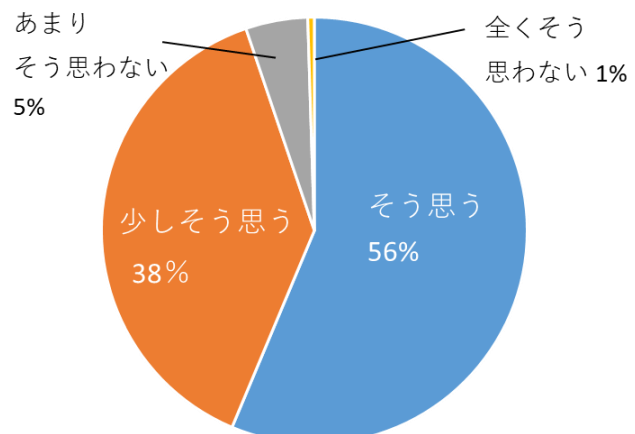
幼児から大人までが木に親しみ、木の良さを学ぶとともに、森林への理解を育むことを目的として「木育」出前講座を8回実施しました。

保護者、先生へのアンケートの結果、9割以上が「子どもが木への親しみが持てた」と回答しており、子ども、保護者、先生の木材利用への理解が増進したと考えています。

【保護者、先生へのアンケート】

Q:子どもが木への親しみを持てたか?(n=95)

実施回数	参加人数(人)	
	おとな	こども
8	320	
	104	216



○木育出前講座の様子



松陽こども園(木工作教室)



聖ヨハネこども園(自然体験)

【参加した先生の声】

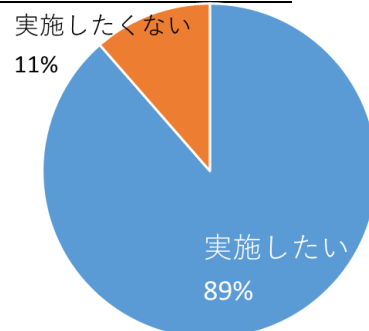
- ・木工活動のほか、自然の中で木々に触れる機会が多くできると良いと思うようになった（保育士）
- ・木育後も散歩や公園で過ごす際に、子供たちの木、葉、木の実などの見方が変わった気がする（保育士）
- ・自分たちの知識の足りなさを感じ、子供たちと一緒に調べたりすることも大事にしたいと思う（保育士）
- ・まずは本物の木に触れることで自然への興味関心を持つきっかけになるのだと感じた（園長）
- ・木育は今の子供や大人にとっても貴重なことだと思う。今後も重要視されると思う（園長）

(5) 里山子ども園推進事業

県内の保育園・幼稚園を対象に、自然体験プログラムを 57 回実施しました。
先生へのアンケートでは、9割近くが今後、園独自で自然体験活動を実施したいと回答があり、幼少期からの自然とのふれあいが推進できたと考えています。

区分	R4
実施回数	57
参加人数	1,354

【先生へのアンケート】
Q: 今後、園独自でこのような自然体験活動を実施したいと思いますか？(n=117)



○里山子ども園の様子



夕日寺健民自然園(金沢市)

(6)いしかわ森林環境実感ツアー

小学生を対象に、森林整備状況や木材産業の現場を見学するバスツアーを開催しました。(R2~4は感染症の影響により不特定多数が参加する県民向けは中止)

子どもたちへのアンケートの結果、実感ツアーを通して、9割以上が森林や林業について興味がわいたと回答しており、次代を担うこどもたちの森林・林業への理解が増進したと考えています。

また、先生へのアンケートの結果、全員が今後も森林環境教育や体験学習に取り組んで行きたいと回答しており、森林や林業への理解増進に取り組む人材や環境づくりが進んだと考えています。

○森林環境実感ツアー(こども向け)

R4参加校(人)	
加賀市立動橋小学校	27
加賀市立河南小学校	26
白山市立旭丘小学校	50
内灘町立向栗崎小学校	43
内灘町立西荒屋小学校	15
津幡町立津幡小学校	71
かほく市立金津小学校	25
合計 7校	257



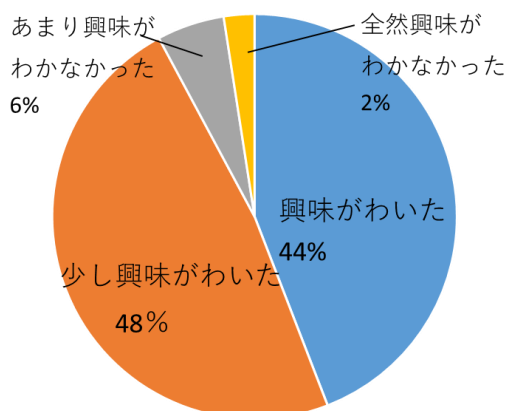
間伐作業の見学



製材工場の見学

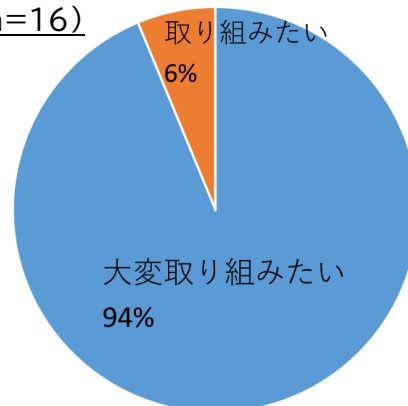
【子どもたちへのアンケート】

Q:森林・林業について興味がわきましたか? (n=204)



【先生へのアンケート】

Q:今後もこのような森林環境教育や体験学習に取り組んで行きたいですか? (n=16)



【実感ツアーに参加した児童の声】

- ・森は「育て、伐って、植える」という繰り返しということを知った。
- ・森林は物を作るだけでなく、空気をきれいにしてくれるなどの自分たちにとってもありがたい事だと思った。その森林を守っていくために自分たちがこの日に学んだことをいろんな人に広めていきたいと思った。

【実感ツアーに参加した先生の声】

- ・普段見ることができないこと、教科書では学べないようなことがたくさんあり、充実した学びの場だと思った。
- ・間伐から製材所まで身近な資源がどのように活用されているかがツアーを通して学べてよかった。
- ・教科書に載っていること以上の働いている人の想いや工夫を知れて理解が深まっていたと思う。
- ・ぜひ、次回も応募します！このツアーに参加しなければ木の伐採は自然にとってマイナスだと思っていた。

(7)いしかわ景観キッズプログラム

小学生を対象に、里山の景観保全と森づくりの大切さを理解する体験学習を2回実施しました。

授業と地元の方のお話を聞いて、風景や景観に対する興味が湧いたとの声があり、里山の景観保全と森づくりの大切さについての理解を推進することができたと考えています。

区分	R4
学校数	2
参加人数	50

○いしかわ景観キッズプログラムの様子



能美市立和気小学校

(8)木に親しむまちづくり推進事業

県民共有の財産である森林の適切な整備・保全を進めるために、木材利用に対する理解を深めることを目的として、建築士等を対象に、木造建築の最新事例や設計のノウハウに関する講習会を開催しました。

参加者からは「木造建築への理解が深まり、良い機会となった」など好評であり、木造建築を行う建築士等に対する効果的な取組として評価が得られました。

R4 開催日	講習会題目	講習会内容	参加人数
9/3(土)	県内の中大規模木造の取組み	県内での木造耐火建築物の事例を紹介。 木場潟公園東園地の木造建築を見学。	42
11/11(金)	岐阜先例に学ぶ地域商社の展開 ～事例紹介と施設見学～	川上から川下までの地域ビジネスや自然エネルギー事業など多岐にわたる事業を展開する活動紹介と関連施設見学。	20
12/3(土)	実物大トラスの組立実習	トラス構造の概要や設計、施工について学び、 実物大トラスの組立を体験。	44
12/10(土)	中大規模木造の設計プロセス	意匠、構造、防耐火それぞれの視点から、中大規模木造の設計プロセスに焦点を当て、最新の事例を学ぶ。	50
3/25(土)	高知先例に学ぶ公共木造建築の試み	高知県での最新事例や取組を紹介し、発注者、コーディネーター、設計者の関係や仕組みを学ぶ。	45
合計			201



先進事例視察



実物大トラス組立実習

(ii) 県民参加の森づくりの推進

(1) いしかわの森づくり推進月間事業

毎年 10 月を「いしかわ森づくり推進月間」、「県産材利用推進月間」と定め、県下 5 地区で県民木づかい推進・森づくり大会を実施しました。

R4 開催日	開催テーマ	大会内容	参加数
10/2 (日)	木材利用の意義を学ぶ (津幡町)	木工体験	37
10/8 (土)	小舞子海岸の森づくり (白山市)	ベンチ作製、下刈り	81
10/22 (土)	火打谷 苗木の里の森づくり (志賀町)	看板等設置、苗畑整備	42
10/26 (水)	木を使い森を育てて郷土の森を守ろう (小松市)	ベンチ作製、下刈り	26
10/28 (木)	能登の里山 広葉樹の森づくり (輪島市)	広葉樹 (コナラ) 植栽	45
計	5 地区		231

○県民木づかい推進・森づくり大会の様子



広葉樹植栽 (輪島市)



県産材ベンチ作成 (白山市)

(2) こども森の恵み推進事業

こどもたちを対象に森林環境教育や森林体験活動を行うNPO等を支援しています。

令和4年度は 18 団体に支援しており、3,202 人のこどもたちが森林体験活動等を経験し、次代を担うこどもたちの森林・林業への理解が増進したと考えています。

区分	R4
団体数	18
参加人数	3,202



森林環境教育 (木工作)



森林体験活動 (植樹)

(3) 森づくりボランティア推進事業

里山林の保全や利活用等の森づくり活動を自主的に実施するNPO等を支援しています。

令和4年度は13団体に支援しており、19.5haの森林整備が行われ、県民参加による森林整備が進んだと考えています。

区分	R4
団体数	13
参加者数	1,396
森林整備等面積 (ha)	19.5



老木の伐採

(4) いしかわ身近な森保全事業

地域住民と協働で集落周辺の放置された里山林等の整備・保全・活用を図るNPO等を支援しています。

令和4年度は3団体の取組を支援しており、延べ218人の地域住民が参加し、9.6haの森林整備が行われるなど、県民参加による森づくりが進んだと考えています。

事業主体	事業内容	整備面積 (ha)	参加人数 (人)
(公財) 石川県緑化推進委員会	不用な木竹の整理、雑草の刈り払い等	3.0	50
火打ちの里森の会	桜苗木の植樹、のとキシマツツジの普及活動等	2.1	137
輪島林業研究グループ	健康の森エリア内の手入れ不足林の整備、担い手育成等	4.5	31
計		9.6	218



森林の整備

(5) フォレストサポーターによる森づくり推進事業

森林ボランティア活動を主体的に推進できる、一定の知識と技術を持った人材(フォレストサポーター)を育成するため、養成セミナーを行いました(講義6回・実技7回)。

令和4年度は新たに18人をフォレストサポーターとして認定しました。



講義の様子



実技の様子

(6) 企業の森づくり推進事業

企業による森づくり活動を推進するため、企業に対する説明会や現地見学会の開催、活動フィールドの仲介、技術指導等を行いました。

令和4年度は新たに6企業の協定締結があり、延べ 2,432 人が活動に参加しました。企業の協定締結数は全国でも3番目(R3年度時点)に多く、参加者の森林と木材利用に対する理解の増進と、県民参加の森づくりの主体の育成が進んでいます。

区分	R4
新規協定締結企業数	6
締結企業数	62
活動フィールド数 (地区)	66
協定面積 (ha)	116
森づくり活動参加人数	2,432



植樹の様子

(7) 石川の森整備活動 CO₂ 吸収量認証事業

社会貢献活動として森林整備活動を実施した企業に対して、社会に対する貢献度を二酸化炭素吸収量として認証しています。

令和4年度は18団体を認証し、企業等が行う森づくり活動を推進しました。

区分	R4
認証数	18
認定吸収量 (t-CO ₂)	75.1